

2 - 2 吉野川の水質の一年間の変化

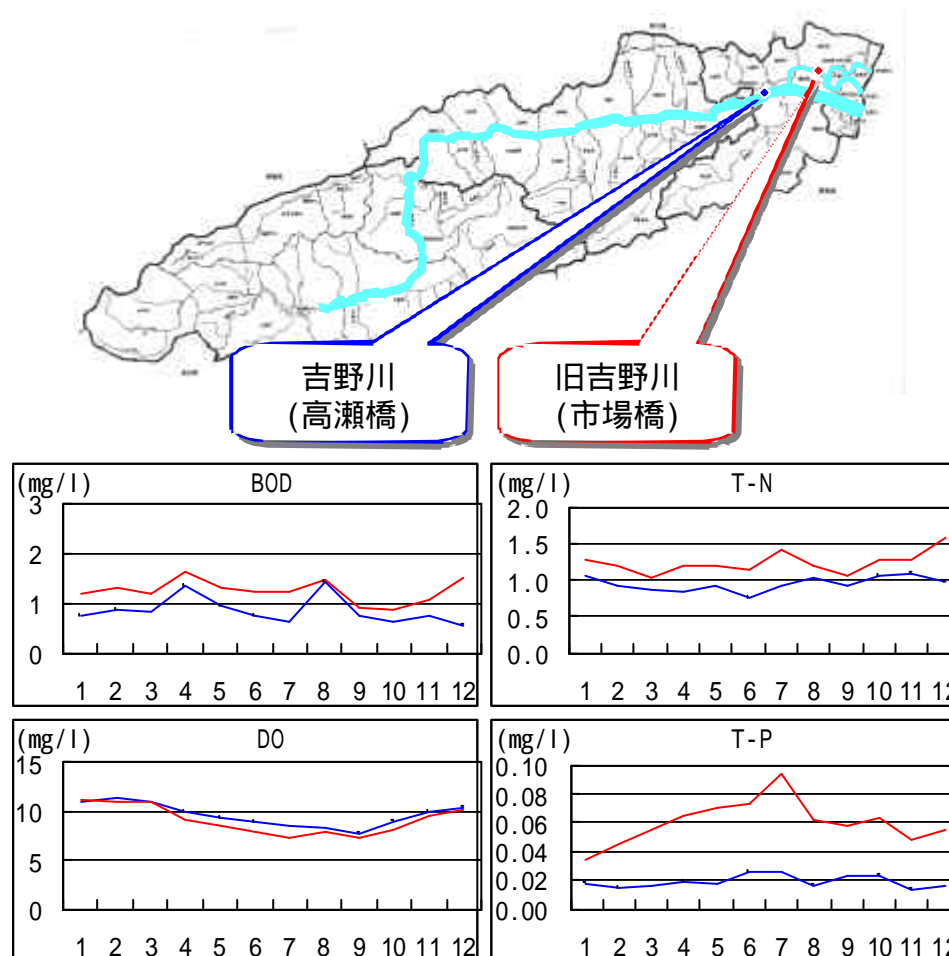
吉野川の水質は一年の間でも変動しています。また、その変動特性は、水質項目によっても異なります。

BODは高瀬橋・市場橋とも年間の変動幅がわずかであり、変化傾向に明確な特徴が見られません。

DOは冬場に高く、夏場に低くなる傾向にあります。これは年間の水温変化の影響を受けており、水温が高いと水中に溶存できる飽和酸素量が減少するため、夏場のDOは低下します。水質の善し悪しとは無関係です。

T - Nは1.0mg/l前後で安定しています。

T - Pは、高瀬橋ではほとんど年間の変化がありませんが、市場橋では4～6月を中心に高くなる傾向があります。周辺の汚濁源の状況から、灌漑期の農業排水の流入が影響していると考えられます。



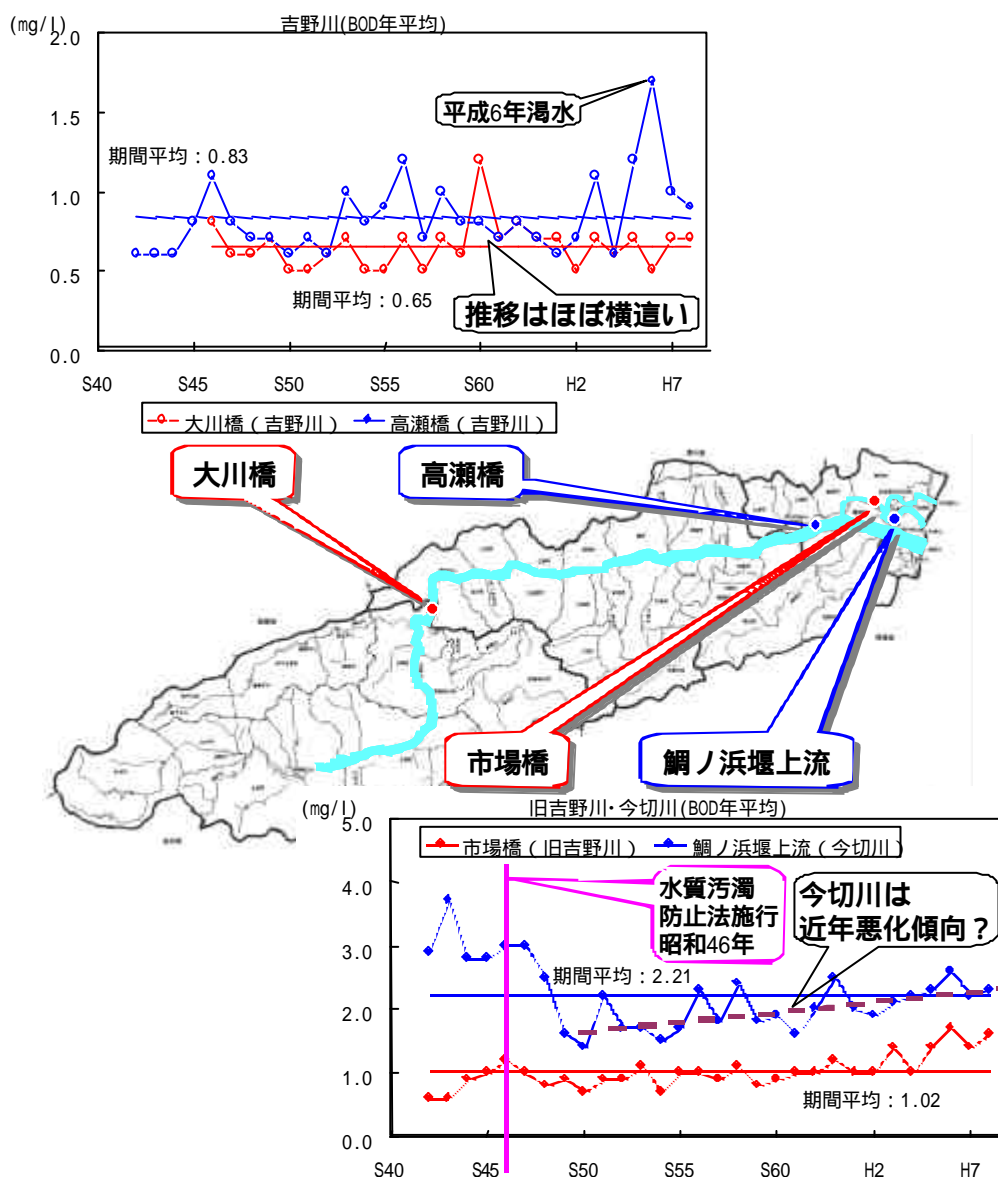
【出典】「公共用水域および地下水の水質観測結果」(5カ年平均,H7～H11) (徳島県)。

2 - 3 吉野川の水質の経年変化

吉野川のBOD経年変化はほぼ横這いであり、良好な水質を長年にわたり維持しています。

旧吉野川・今切川では水質汚濁防止法が施行された直後では改善が見られたものの、その後は悪化傾向にあります。

流域面積の小さい旧吉野川・今切川は、流域の開発や人口・産業の集中に伴う人為的な汚濁物質排出量の増加などの影響を受けやすく、水質は若干悪化する傾向にあります。



【出典】「公共用水域および地下水の水質観測結果」(徳島県)。

2 - 4 吉野川水質の上下流変化

吉野川では徐々に下流域ほど水質が悪化する傾向にあります。

下流では、周辺地域から家庭排水などが流入するので水質は悪化してしまいます。吉野川本川では、大川橋（0.6mg/l）から脇町潜水橋（1.0mg/l）の間で若干水質が悪化し、その後は第十堰までほぼ同じ水質です。第十堰下流の感潮域では、さらに水質は若干悪化し、1.3～1.7mg/lになります。

旧吉野川は第十堰樋門（0.9mg/l）から市場橋（1.4mg/l）にかけて水質悪化見られます。さらに今切川では、工場からの排水の影響もあり、著しく水質が悪化しています。

